

第4回 食の新潟国際賞 受賞者決定！

佐野藤三郎特別賞 = 増本 隆夫氏

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 領域長(日本)



高度な国際協力の達成に寄与。

低平地帯の排水改良、排水問題を検討し排水施設の最適規模研究では雨量計や排水施設の配置、規模計画手法を開発し、現場での計画管理に直結する技術開発に多数研究実をあげ、水田の洪水防止機能評価法の開発でも先駆的で高度の研究業績をあげた。

アジアモンスーン水田地帯にも対象を広げ、国際河川メコン河の研究では4研究機関を率いるリーダーとして世界的情報発信が可能な研究成果体制の構築を図り、行政の事業実施指針・計画基準に反映高く評価された。

1957年11月生まれ 58歳

受賞者コメント (7月29日の「第4回食の新潟国際賞受賞者発表記者会見」のコメントから抜粋)

今回、食の新潟国際賞佐野藤三郎特別賞を受賞しました。誠に光栄に存じております。この喜びは所属しております研究機関の農研機構の先輩であるとか、同僚、あるいは後輩たちに伝えたいと思いますし、またこの研究分野に導いてもらいました大学の恩師に、あるいは陰ながら支えてくれた家族にも伝えたいと思っております。同時に審査頂いた選考委員の方々にも感謝の気持ちを示したいと思っております。

これまでの研究活動のどこが評価されたということを私なりに考えますと、二点あると思っております。一つは国際貢献、国際展開であります。もう一つは地域への貢献ということです。

一つ目の活動であります、これまでの研究は言葉にまとめますと、風土に適合した持続的水田水利用方式の提案と国際展開ということです。

もう一つは地域への貢献で、20年前になります、低平地帯の排水問題の一部として開発いたしました知識情報を用いた出水予測法を当時作っておりましたが、それは故佐野藤三郎氏が理事長を務めておられました亀田郷土地改良区の排水施設管理に実際に利用されまして、そしてまた改良されたというような経緯があります。

更に新潟県の西蒲原地区は広大な地区ですが、機械排水管理費、いわゆる都市化していて、農業と都市が共存しているのですが、その農地側と都市側の負担の排水機場の管理の負担問題辺りの基礎的情報を出してきたことで、具体的に根拠を示すことが出来たことで地域貢献が出来たと考えております。

最後に受賞を期に、今後の展開として、これまで開発してきました水循環モデルは日本の新潟県の関川流域、あるいは今住んでおります地域の利根川流域辺りに適用してまいりました。そして日本全国336流域全てに展開してきました。更にそれを広げてメコン川流域の中国、タイ、カンボジア、ラオス、ベトナムに展開して水稻を中心にしてきたわけですが、それを畑地農業にも広げまして、ヨーロッパ、北米、南米、そういった所に、全世界に広げていきたいと思っております。